

Aoyama Sapience

第48号



青山学院大学 文学部 英米文学科同窓会 会報

2022年12月15日発行

■ 巻頭随想 ■

コロナ禍対応3年目の大学にあって

小野寺 典子

来年度、英米文学科同窓会が25周年を迎えられることをお慶びし、日ごろの当学科へのご支援、また、諸活動へのご尽力に敬意を表し、感謝申し上げます。

この4月から学科主任を任せられ、大学ではコロナ禍対応の3年目に入りました。2020年度より、我々にとっても全く未経験でしたオンライン体制での授業・会議・オープンキャンパスを経て、今年度はようやく対面授業に戻りましたが、まだ新型コロナウイルス感染の完全収束は見えていません。学生・教員・皆様にとって未曾有のパンデミック体験であり、キャンパスライフにおいても4年生の就職活動を始め、多くの行動の制約や履修上の困難もあり、それによって体調を崩す学生も増え、大変懸念しております。

一方で、2年間のパンデミック体験から、英米文学科生の真摯で積極性ある底力を感じた時期でもありました。新入生は全30回の授業を自宅などのパソコン越しに受講しながらも、コツコツと英文読解や初めての発表

に取り組み、成果を上げました。

私の担当するゼミでは、普段、英語・日本語の会話を録音・文字化・分析し、男女差・親疎・年代差・地域差といった社会的要因から変異を調べるのですが、扱えるデータはオンライン会話のみとなりました。制約の中ではありましたが、学生達は思わぬ発見をしてくれました。「対面会話と遠隔会話の差異」という新しいトピックです。(対面データは過去のものを用います。)人と直接会い、対面で話す時と、オンライン会議の画面越しの会話では、どのようなチャンネル(言語・韻律(イントネーションなど)・非言語(うなずきなどの動作・身体の向き等))に頼って、会話を運営・成立させているのか。これは、現在、言語研究全体を見ても、最新トピックの1つとして進められています。空前のパンデミックという困難の中でも、言語使用の中に、人間コミュニケーションの本質を見極めようとする学科生の姿勢から、質の高い研究が生まれています。青学のゼミからもこうして、次世



代の研究者が生まれていきます。

1996年に、伝統ある英米文学科の英米文学・英語学にコミュニケーションという新分野が加わりました。新型コロナウイルス感染拡大という世界史的出来事の中、日々、模索・切望されるのは人との良いコミュニケーションだと思います。創世記2章には「人が独りであるのは良くない。彼に合う助けける者を造ろう」とあります。人が人らしく、食事を共にし、集う場を設け、対面コミュニケーションが楽しめる日が待たれます。私たちは、新しいWeb会議ツール時代・多様化・紛争といった難しい時世にありますが、英米文学科の学生と共に、他者・弱者を理解し、他者のために寄り添い、助けられる存在となれるよう、これからも努めて参りたいと思っております。

(英米文学科教授・学科主任)

シェイクスピアから愛の花束を (10)

Here's metal more attractive.

(大意：こちらにもっと磁力の強い金属がありますので。)

悲劇『ハムレット』より題名役の主人公のせりふ。劇中劇が上演される3幕2場で、ハムレットは母である王妃から隣に座るよう招かれます。しかし、彼は母の願いを断り、このユーモラスなせりふをうそぶいて、恋人オフィーリアのそばに座を占めます。一見、愛する彼女と一緒に芝居を観たい、と言っているかのように。実際、オフィーリアの父が

ローニウスは、このやりとりを王子がわが娘を恋する証拠だと考えます。

たしかに「磁力の強い金属が」という言葉は、ハムレットとオフィーリアが惹かれ合う仲でなければ、不自然に聞こえてしまうことでしょう。ただし二人の関係が一体どの程度のものだったのか？劇中では必ずしも明確には示されていません。

この劇中劇はハムレットが仕掛けた巧妙な罠でした。ハムレットは亡き父を殺した真犯人が現国王クローディアスであるとの確証を得るために、国王殺

しを題材とする芝居をクローディアスの御前で上演し、彼が示す反応から真相を見抜こうとしていました。

舞台上の動きを想像してみましょう。芝居を観る王と王妃は並んで着席するはずですが、もしハムレットが王妃の真横の席に着いてしまうと、当然クローディアスの顔を盗み見ることは難しくなります。そこで王子はオフィーリアの近くにいたい旨を表明し、離れた位置から王の表情を見定めようと、一計を案じたのだとも考えられます。シェイクスピア劇の愛の言葉は、読み手の視点により、幾通りにも解釈できる余地が残されているのです。

佐久間 康夫 比較芸術学科教授
(*82年院修了)